

平成28年度行政評価シート【個表】

平成 28 年 6 月 28 日

評価対象事業	評価者	市民健康課長	石黒 知美
健福-39 成人保健事業	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務	主管課	市民健康課
		関連課	
総合計画上の位置付け	分野	健康福祉	施策の方針
			市民の健康と安心づくりの推進

1 事業の目的

対象	市民
意図	市民の健康の維持増進に向け、啓発を図るため。
効果	家族・地域など健康意識の醸成をはかり、自分から進んで健康の維持増進のための行動をとることができる。また、個人及び地域で、健康づくりを継続できる環境をつくる。

2 平成27年度に実施した事業の概要

市民の健康の増進を図るため健康手帳の交付や健康教育、健康相談等を行った。
若年期から自らの健康に関する意識を高め、より良い生活習慣を確立するために、本人のみならず家族ぐるみ地域ぐるみでの健康づくりを支援した。

3 事業費等基礎データ

データ区分	26年度決算	27年度決算	データ区分	28年度当初予算	備 考
人 口	177,464人	177,243人	人 口	176,869人	・各年3月31日 (住民基本台帳)
世 帯 数	80,368世帯	80,676世帯	世 帯 数	80,928世帯	
事業の対象者数			事業の対象者数		
運営資源状況			当初予算(千円)	3,637	
国県支出金	963	959	国県支出金	961	
地方債	0	0	地方債	0	
その他	0	0	その他	0	
一般財源	2,576	2,496	一般財源	2,676	
人員配置数	1.7	1.7	人員配置数	0.9	
人件費(千円)	12,874	13,707	人件費(千円)	7,091	
経費運営			総事業費(千円)	10,728	
総事業費(千円)	16,413	17,162	総事業費(千円)	10,728	
市民1人当りの経費(円)	92	97	市民1人当りの経費(円)	61	
対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)		

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	2. 増大している
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	3. 廃止・休止による影響は大きくある
	今後も市が実施すべき事業か	5. 豊かな市民生活に寄与することから、今後も市が実施する必要がある
有 効 性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	△. 負担未導入
		△-3. 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	△. 協働未実施
		協働実施済の場合のパートナー
事業内容の方向性	☒ a: 事業内容を見直す ☐ b: 事業内容は現状通りとする ☐ c: 事業を休止又は廃止する ☐ d: 他事業と統合し、本事業は廃止する	見直し ☒ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他
		情報の発信方法を工夫する等、地域の様々な資源を活用していく。
予算規模の方向性	☐ A: 予算規模を拡大する ☒ B: 予算規模は現状維持とする ☐ C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由 様々な機会をとらえ、若いうちから自らの生活習慣の改善、健康に対して、意識を高められるような啓発活動を充実・拡大させていく。
総評(評価に対する考え方、根拠等)	「健康づくり計画」を踏まえ、成人期～高齢期(介護予防も含めた)の健康づくり事業の、系統的な内容の検討が必要と思われる。	

平成27年度事業実施にあたっての課題 (前年度未解決の事項を含む)	受診率向上のための各種健診(検診)の見直しや若年期からのより良い生活習慣を意識付けできるような地域のイベント等での啓発を、関係機関の協力を得ながら、引き続き実施する。また、地区組織間での連携を図り、地域での健康づくりの機運を高めるための仕掛けを検討していく。		
課題解決のために行った平成27年度の取組	健診の受診率が横ばいか微減傾向にある中、受診者の身体的負担を軽減するがん検診のあり方について、鎌倉市医師会と協議を行い、少量の採血による胃がんリスク検診を導入し、手法の見直しを図った。また、若年層の健康づくりに関しては、スマートフォンを使った新たな取組を導入した他、子どもと一緒に生活習慣の改善に取り組めるような講座を実施した。	☐ 解決 ☒ 一部解決 ☐ 未解決	
未解決の課題、新たな課題とその理由	若年期から、より良い生活習慣を意識できるよう、地域のイベント等での啓発の中で、27年度から導入した「スマホdeドック」の周知、拡大に取り組む必要がある。また、地域での健康づくりの機運を高めていくために、様々な視点で関連各課や機関、地区組織と連携を図ることを引き続き検討していく。		

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項									
団体名	鎌倉市								
他市実績									
比較事項									
団体名	鎌倉市								
他市実績									
比較事項									
団体名	鎌倉市								
他市実績									
当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方									

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	健康教育(講座、地区組織)、健康相談の参加(利用)者(64歳以下)					単位	人	指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		
地域で実施するイベント等も含め、生活習慣病予防や健診の受診勧奨等様々なことを普及啓発できた人数であるため	目標値	220	1,200	1,300	1,400	1,500		1,600		
	実績値	1,196	2,016							
	達成率	543.6%	168.0%							
指標の内容						単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		
	目標値									
	実績値									
	達成率									
指標の内容						単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		
	目標値									
	実績値									
	達成率									
当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	市民の健康度を主観的・客観的にはかり、誰もができるだけ長く、自分らしく暮らし続けることができるまちづくりを目指す									

● 事業に関する特記事項

☐ 第3期基本計画前期実施計画重点事業	☐ 19節で予算措置している補助金が含まれる事業
--	---